

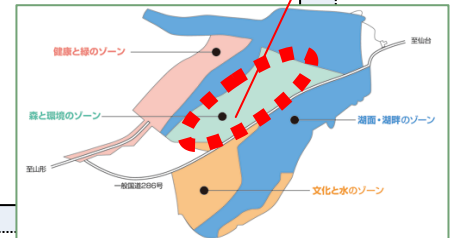
みちのく森の楽校だより 12月号



みちのく公園「里山地区」とは？

みちのく公園「里山地区」は、仙台市の水瓶である釜房湖に面した里山です。ここにはかつて薪を採り炭焼きをしていた雑木林や、100年程前に植えられたスギ林があり、尾根には馬が荷を引いた里道、谷あいにはため池や棚田の跡もみられます。

みちのく公園では、この「里山地区」を、釜房湖という仙台市の水源を涵養するかけがえのない森であると捉え、その健全化のための樹林管理を行うとともに、人と自然とのかかわりが培ってきた里山の自然や文化を保全、継承し、今日に活かすことを目指しています。



12月17日（土）雪のち曇り 年末餅つき！お正月飾り！

時のたつのは早いものでもう師走、1年の終わりです。今日は、年末恒例の餅つきです。杵と臼で、2升ごとに5回の餅つきをしました。お正月準備として、ミニ門松づくり、しめ縄づくり、そして、前回の活動で完成しなかった万能力ンダーづくりです。昨日からの雪が晴れてきたので、雪かきもしました。

餅つき！

杵と臼でついたお餅！

- ・ 前日の晩にもち米を研いで一晩もち米をたっぷりの水につけておく。
- ・ 一晩水につけたもち米をザルで水をきる。
- ・ かまどに火を起してお湯を沸かして、臼に入れて温める。
- ・ 刃釜に湯を沸かし、蒸籠を準備。
- ・ 蒸し布をひろげて、ザルで水を切ったもち米を入れて、蒸籠にかける。
- ・ 蒸し上がった米を臼に移して、杵でもち米を潰してこねる。これがけっこうな重労働！
- ・ 潰し終わったら、いよいよ杵で餅をつく。



石臼できな粉づくり

お餅の味付け用に、きな粉をつくりました。きな粉は、炒った大豆を粉状に挽いたもの。前回は石臼きな粉を作ったので、お手の物（？）

大豆を炭火でよく炒ったあと、石臼で挽きました。とても香ばしい香りが漂います。

これをまた挽いて、何度か繰り返して、最後にふるいにかけて、細かいきな粉をつくりました。



ミニ門松

門松（かどまつ）とは、正月に家の門の前などに立てられる松や竹の正月飾りのこと。古くは、木のこずえに神が宿ると考えられていたことから、門松は年神を家に迎え入れるための依り代という意味合いがあります。

松は常緑樹、つまり冬でも青々とした葉が残っている木です。そのため長寿と結び付けられ、昔からたいへん縁起のいい木とされてきたのです。

森の楽校でつくる門松は、ちょっと小さめです。里山にはえている植物でつくりまます。竹、松、南天、笹です。

まず、入れ物として、太目の竹を節を残して切ります。中に入れる竹は細いもの、大きく斜めに3本をカットして3本のうち1本だけ頭一つぶん飛び出る長さに切りそろえておきます。竹をまとめて太い竹に入れ、松や南天、笹などで飾りました。



しめ飾り

しめ飾りをすると、お正月だなと感じますね。

そもそも正月行事というのは、年神様という新年の神様をお迎えするための行事です。年神様は家々にやってきて、生きる力や幸せを授けてくださると考えられています。そこで、お正月が近づくとしめ縄やしめ飾りを施して、年神様を迎える準備をします。

しめ縄（注連縄）には、神様をまつるのにふさわしい神聖な場所であることを示す意味があります。

しめ飾り（注連飾り）というのは、しめ縄に縁起物などの飾りをつけたものをいいます。

今年の新しい藁を使って、しめ縄としめ飾りをつくりました。



木の枝の万能カレンダー

11月の会員活動で作り始めた、木の枝を使って万能カレンダー。前は完成しなかったのですが、今回で完成させて、新年に使えるようにします。

前回の活動で部品はできていたので、今日は文字を書き、楊枝の留め具を作って、台にとめていきます。

